

LGBTQ+の人が差別されことなく、安心して利用できるトイレ空間を知るためのポイント
9月13日（水）大阪市交通バリアフリー基本構想推進協議会 準備資料

作成：新設Cチーム

駅舎等のトイレの建築構造

1.多機能トイレが、男女別トイレから独立している。ピクトグラムも含め性別を問わない。



男女別に分かれた空間を通らずに、外空間から直接入ることができる。使いやすい。
写真は左2つが大阪メトロ新大阪駅改札内。右2つが心斎橋パルコ5階。

2.多機能トイレが、男女別トイレから独立している。しかし、ピクトグラムが性別を問う。



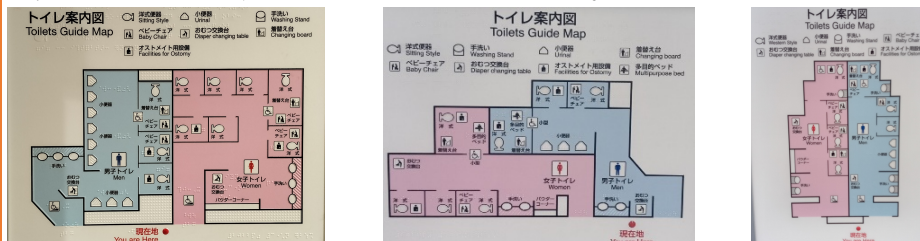
外空間から直接入ることができるが、ピクトグラムは男女別であり、使いにくい。
ピクトグラムをはじめとする男女別のデザインを性別を問わないデザインに変更することで使いやすくなる。

3.多機能トイレが、男女別トイレの出入口にある。



短い距離ではあるものの男女別に分かれた出入口を必ず通るため、使いにくい。
男女別に分かれた出入口を外空間から直接入ることができるようにリフォームすることで使いやすくなる。

4.多機能トイレが、男女別トイレの奥にある。



男女別に分かれた空間を必ず通るため、使いにくい。
多機能トイレの位置を手前に移動させるなど大規模な変更が必要。LGBTQ+だけでなく障害者も使いやすくなる。

参考資料

大阪メトロは、自社ウェブサイトで「多機能トイレ及び授乳室設置駅」を詳細に情報公開しています。

心斎橋パルコのトイレは2021年のIAUD国際デザイン賞で金賞を受賞。

大阪メトロ新大阪駅のトイレは2015年の日本トイレ大賞で国土交通大臣賞を受賞。